中期事業計画(2019年度～2023年度)

福岡国際空港株式会社

中期計画（5年後の将来イメージ）

安全・安心を第一に、

国際線ネットワーク拡充

平行誘導路二重化完成後の発着枠増を戦略的に活用し、国際ネットワークの拡充を図り、交流人口の拡大による地域活性化に寄与。

『東南アジアの未就航路線、欧米豪の長距離路線の誘致に取り組み、内際計52路線、2,710万人（国際線820万人、国内線1,890万人）』

国による滑走路増設後の更なる増枠に向け、実現方策や運用方法、環境や安全対策等を国・関係自治体と協議・検討を進めます。

満足度向上

航空旅客へのサービス・利便性を高めることで利用者の満足度を向上。

『内際アクセス移動時間の短縮化（10分短縮/片道）、国際線旅客ビル施設・設備整備による混雑緩和、免税店舗の大幅拡充』

価値向上

航空旅客、一般空港利用客ともに時間価値・空間価値を高める「エアポートシティ」を実現。新しさと楽しさを提供。

『国内線複合施設整備（バスターミナル・ホテル・商業施設）、国際線旅客ビル施設の増築推進、国内線・国際線立体駐車場整備』

1.　国際線ネットワーク拡充に向けた取組み事項

今後5年間の旅客数（路線数）の推移

	2017年度	2019年度 （1年目）	2020年度 （2年目）	2023年度 （5年後）	2048年度 （参考：30年後）
旅客数	2, 398万人	2, 510万人	2, 570万人	**2, 710万人**	3, 500万人
国内線 （路線数）	1, 765万人 （26路線）	1, 810万人 （26路線）	1, 850万人 （26路線）	**1, 890万人 （26路線）**	1, 900万人 （33路線）
国際線 （路線数）	633万人 （18路線）	700万人 （22路線）	720万人 （24路線）	**820万人 （26路線）**	1, 600万人 （67路線）

1.　国際線ネットワーク拡充に向けた取組み事項

路線拡充に向けた取り組み

- 東南アジアの未就航路線、欧米豪の長距離路線の誘致に取り組み、26路線へ拡大

ターゲット路線と路線ステップに応じたインセンティブの提供等

- わかりやすい新料金体系の導入（エアライン負担の空港使用料金体系、施設利用料金の見直し等）
- ターゲット路線の誘致・安定就航を支援する料金割引制度（インセンティブ）の導入
- 国内線PSFCの設定
- 周辺地域への航空機騒音に配慮した着陸料金体系（航空機の低騒音化促進と利用時間外遅延便を抑制する料金体系化）

路線誘致に向けた体制整備と営業戦略推進、関係地方公共団体等との連携

- エアライン誘致専任部署によるエアラインセールスの実施
- エアライン向けサービス提供およびマーケティング支援
- JNTO、自治体の観光部局、九州観光推進機構と需要活性化に向けた施策推進、更には地元経済界との連携による促進

1.　国際線ネットワーク拡充に向けた取組み事項

急速に拡大する国際線需要への対応

増設滑走路供用開始時の想定処理容量（40回/時間）から更なる拡大の早期実現に向け、具体的な方策やその運用方法、環境や安全確保策等について、今後の需要動向をふまえながら、国および関係自治体と協議・検討を進めるとともに旅客増加に対応した空港施設インフラの整備を進める。

国際線旅客ビル3F 出発保安検査場（イメージ）

国際線旅客ビル1F 到着ロビー（イメージ）

2.　航空旅客満足度向上に向けた取組み事項

満足度目標と空港運営への反映

- 航空利用客への空港満足度アンケート調査において、「総合満足度8.0以上＊」を達成　＊10段階評価
- インスタントフィードバックシステムを施設内に設置し、タイムリーな共有と迅速な改善を実施

Free　ターミナル内の快適さ向上

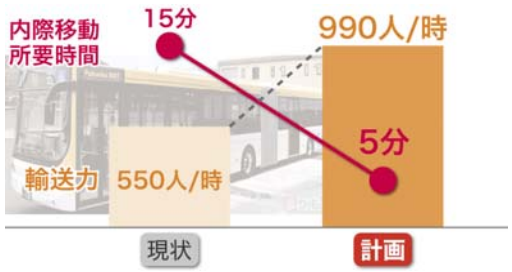
- 国内線旅客ビル施設の奥行拡大による空港機能強化
- 多言語・多文化を受け入れる環境整備（多言語サイン・ピクトグラム等の導入）
- 国際線旅客ビル施設・設備の機能増強
  - 出発ロビー増床（6,500⇒8,100㎡）、保安検査場増床
  - 到着ロビー増床（2,170⇒4,640㎡）、手荷物受取コンベア増設（4⇒6基）
  - PBBの増設（大型スポットに対し1基増設）

国際線：出発ロビー（イメージ）

2.　航空旅客満足度向上に向けた取組み事項

Fast　移動・手続きの円滑さ向上

- 内際アクセスの専用道路化（移動時間5分以内/片道　2023年度予定）
- 連絡バスに自動運転導入（※2023年度以降導入予定）
- 先進設備の導入による出発手続き時間の短縮（出発手続き10分以内）
  インラインスクリーニングの導入、自動手荷物預入機の導入



内際アクセス
専用道化等の効果

Fun　空港内で過ごす時間をより楽しく

- 和を基調とした内装や四季を表す映像等、「THE JAPAN」を感じる工夫を施す
- 免税店の商品が多く目に留まるウォークスルー型を導入し、旅客利用率を向上
- 免税店舗面積の拡張(1,520㎡⇒4,000㎡)（※2024年度以降供用開始予定）

ウォークスルー型免税店（イメージ）

3.　時間価値・空間価値を高める取組み事項

エアポートシティの実現

□ 航空利用客・一般空港利用客ともに時間価値と空間価値を高める『エアポートシティ』を実現し、福岡の新たな魅力発信と将来の航空需要増につなげる。

国内線地区（イメージ）

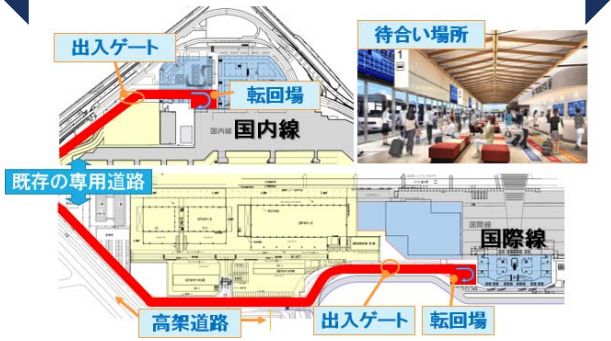
複合施設*の整備

＊バスターミナル・ホテル・商業施設

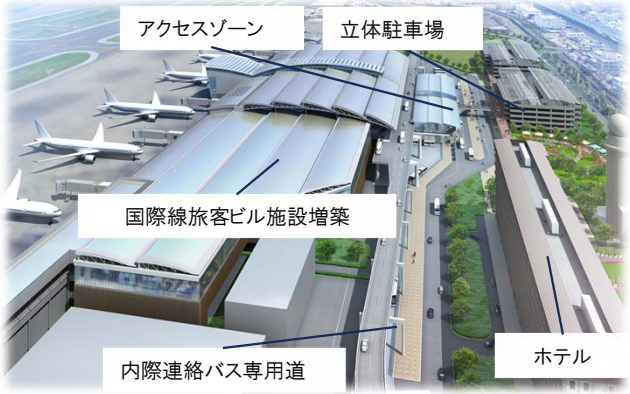
展望デッキリニューアル

（一般空港利用客：年間800万人以上）

内際アクセス短縮化



国際線地区（イメージ）



国際線旅客ビル施設増築整備（1,600万人対応）

立体駐車場の整備（国際：800台×2棟）

国際線用地の活用（ホテルの誘致）（2026年度供用開始(予定)）

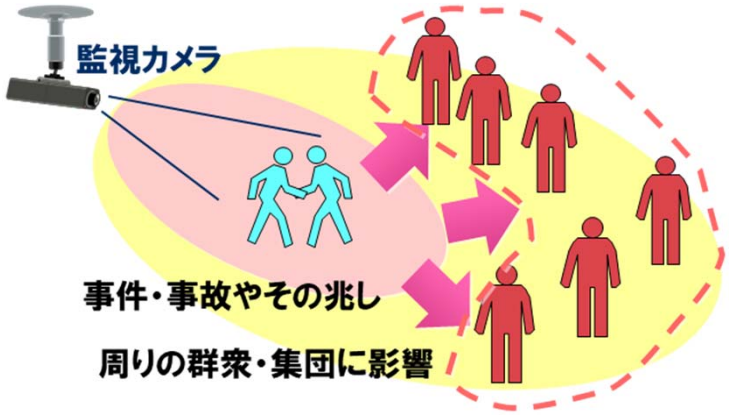
安全・保安強化に向けた取組み

安全の強化

- 現業部門、統括部門、外部有識者による重層的モニタリングの着実な実施
- 継続的な教育・研修の実施、技能オリンピック等による安全文化の醸成
- 多言語対応による避難誘導システムの導入

保安の強化

- 空港事業継続計画（BCP）の充実・強化
- 空港関係機関、自治体との合同訓練の実施
- 不審物・不審行為検知システムの導入
- 監視カメラの画像解析技術等の導入による犯罪抑止効果向上

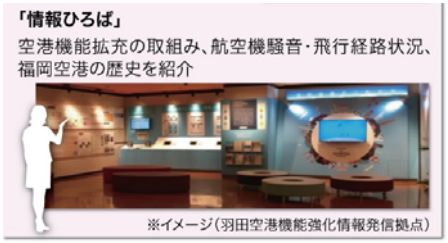


不審物・不審行為検知システム（イメージ）

地域との共生に向けた取組み

周辺住民・地域との信頼関係の更なる充実

- 地域団体、地元行事などの地域活動に積極的に参加し、周辺地域と真摯に向き合う
- 空港機能拡充等に関する丁寧な情報発信・説明を実施



情報発信のイメージ

地域共生事業の承継・発展

- 空港振興・環境整備支援機構の地域共生事業を承継・発展（空港機能拡充に伴い、環境・時代の潮流に応じた施策を実施）
- 地域団体、周辺地域の要望を踏まえた施策立案の検討
  - 巡回健康診断の継続・実施
  - 移動負担軽減策としてバス増便に向けた取組み

福岡県の将来構想実現への協力

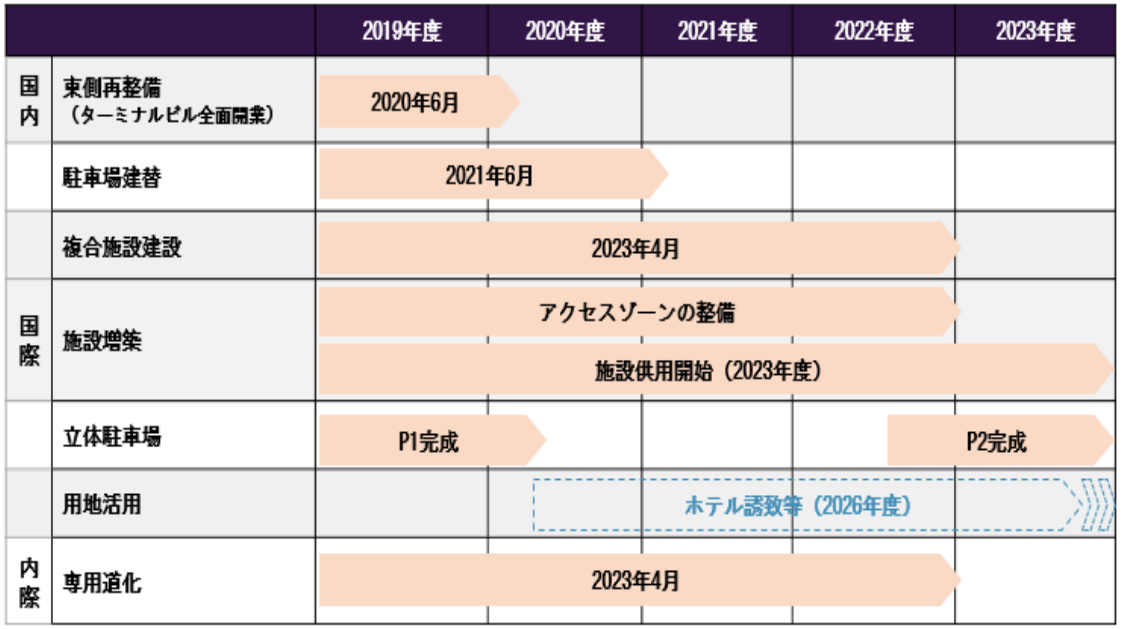
24時間利用可能な空港、発着枠に余裕がある北九州空港の特性を活かし、

- 福岡空港では発着枠を取得できない、または運用時間外での就航を希望するエアラインの誘致
- エアライン誘致イベント等で北九州空港と一体となり福岡・九州のプロモーション活動を推進
- 福岡空港の貨物ビル施設容量を超える貨物の北九州空港への誘導や貨物ハンドリング支援

設備投資

空港活性化を目的とする設備投資
：5年間計　約1,020億円

- 国内線地区：東側再整備工事、複合施設の建設
- 国際線地区：旅客ビル施設の増築、免税店舗の拡張等
- 立体駐車場、内際アクセス専用道の建設、用地活用

空港機能維持を目的とする設備投資
：5年間計　約130億円

- 空港基本施設（滑走路・エプロン・車両等）の維持管理・修繕
- 旅客ビル施設に関する修繕・更新、他